

令和 6 年度
学校評価報告書

四天王寺東高等学校
四天王寺東中学校

目 次

1. めざす学校像	2
2. 中期的目標	2
【自己評価アンケートの結果と分析・学校関係者評価委員会からの評価】	3
* 自己評価アンケートの結果と分析	
結果	3
設問ごとの分析と具体的な改善方法	4
* 学校関係者評価委員会からの評価	7
3. 本年度の取り組み内容及び自己評価	8
資料	
①過去年度との比較資料	9
②集計結果を分析した資料	10

1. めざす学校像

聖徳太子の仏教精神に基づく情操教育の実践及び教科学習・学校行事・クラブ活動を通して、豊かな人間性を備え、知・徳・体すべてに調和がとれた人物を育成します。また、社会ルールや校則を遵守し、探究型教育やICT教育などに積極的に取り組み、粘り強く努力を重ねて学習に励むことにより、希望する進路を実現し、将来、リーダーとして活躍できる人間力を備えた人物の育成を目指します。

- 目標
1. 聖徳太子の和のご精神を涵養し、豊かな情操を備えた人間を育成する。
 2. 探究活動やICT教育に取り組み、学習意欲の高揚と学力の向上を目指す。
 3. 自己の進路を考え、自己実現を図る進路指導を行う。
 4. 規範意識を高め、調和の取れた人物を育成する。

2. 中期的目標

1. 聖徳太子の和のご精神を涵養し、豊かな情操を備えた人間を育成する。
 1. 生徒会活動が活発に行われている。
 2. 部活動が活発に行われている。
2. 探究活動やICT教育に取り組み、学習意欲の高揚と学力の向上を目指す。
 1. 家庭学習時間の確保に向けた取り組みが行われている。
 2. 公開授業や研究授業など指導の内容・方法の工夫改善に向けた取り組みが、学校全体で行われている。
 3. クラス編成や講習など進路実現に向けた学力向上策が充実している。
3. 自己の進路を考え、自己実現を図る進路指導を行う。
 1. 進路説明会は、適切に計画・実施されている。
 2. 定期的な懇談・面談などを通じて適切な進路指導がなされている。
4. 規範意識を高め、調和の取れた人物を育成する。
 1. 遅刻・欠席を少なくさせている。
 2. 挨拶をすることや時間を守る指導などを通して、基本的な生活習慣の確立に努めている。
 3. 生徒の問題に対して情報を共有し、組織的に対応できている。
5. 学校運営について
 1. 職員の生徒募集の意識高揚が図られている。
 2. 学校のホームページを活用し、教育活動や生徒の学校生活について情報公開している。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校関係者評価委員会からの評価】

*自己評価アンケートの結果と分析（令和7年1月実施）

	番号	設 問	結果(%)				番号	
			1	2	3	4		
目標1	1	校外活動(修学旅行・校外学習・スキー学舎等)が適切に計画・実施されている	55	37	8	0	1	目標1
	2	生徒会活動が活発に行われている	22	64	12	2	2	
	3	部活動が活発に行われている	16	74	10	0	3	
	4	人権教育が適切に計画・実施されている	22	66	6	6	4	
	5	いじめに対する基本方針に沿い、その取組が適切に実施されている	31	67	0	2	5	
	6	仏教教育・仏教行事が適切に計画・実施されている	36	42	16	6	6	
目標2	7	教育課程は学習指導要領に沿い、かつ生徒や学校の実態等を踏まえたものになっている	29	61	8	2	7	目標2
	8	効果的で円滑な学習活動を進めるために適切な時間割を編成している	38	60	2	0	8	
	9	年間を通じた教育計画を各教科別に立てている	43	57	0	0	9	
	10	公開授業や研究授業など指導の内容・方法の工夫改善に向けた取り組みが、学校全体で行われている	32	56	10	2	10	
	11	教科内で、授業内容の改善・向上に向けた話し合いを行っている	33	59	8	0	11	
	12	学習状況に応じて生徒を支援する体制が整っている	22	68	8	2	12	
	13	家庭学習時間の確保に向けた取組を行っている	16	71	10	2	13	
	14	授業で、探究活動を実践したり、ICT（情報通信技術）を活用している	32	62	6	0	14	
	15	クラス編成や講習など進路実現に向けた学力向上策が充実している	27	59	10	4	15	
目標3	16	生徒の進路選択に役立つように状況に応じた必要な情報を提供している	52	48	0	0	16	目標3
	17	進路説明会は、適切に計画・実施されている	52	46	2	0	17	
	18	定期的な懇談・面談などを通じて適切な進路指導がなされている	56	42	2	0	18	
	19	実力考査・外部模試等を進路指導に適切に活用している	43	43	12	2	19	
目標4	20	校内外の指導等、問題行動を未然に防ぐ教育を適切に行っている	31	55	10	4	20	目標4
	21	生徒の問題に対して情報を共有し、組織的に対応できている	31	59	8	2	21	
	22	社会のルールマナーを順守させている	22	71	8	0	22	
	23	服装規定を守らせている	33	51	12	4	23	
	24	生徒への指導について、保護者への報告が適切になされている	58	42	0	0	24	
	25	遅刻・欠席を少なくさせている	36	54	10	0	25	
	26	挨拶をすることや時間を守る指導などを通して、基本的な生活習慣の確立に努めている	35	63	2	0	26	
	27	環境美化や清掃に対する意識の向上を図っている	25	69	2	4	27	
	28	年間を通して生徒自らに健康観察や健康の保持増進できる能力を養わせている	25	67	6	2	28	
学校運営	29	職員会議をはじめ各種会議が有効かつ効率的に機能している	20	65	10	6	29	学校運営
	30	教員間・教科間の相互理解がなされ、連携して教育活動が行われている	25	65	8	2	30	
	31	学校のホームページを活用し、教育活動や生徒の学校生活について情報公開している	36	58	6	0	31	
	32	研修・研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制がある	16	70	14	0	32	
	33	教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている	16	69	14	2	33	
	34	防災訓練の実施等、防災に対する意識の高揚を図っている	39	61	0	0	34	
	35	入試説明会などを通して、情報の発信が適切に計画・実施されている	49	45	4	2	35	
	36	ホームページで入試関連行事などの情報発信が適切に計画・実施されている	53	45	0	2	36	
	37	個人情報保護の指針が守られ、個人情報が適切に扱われている	57	43	0	0	37	
	38	職員の生徒募集の意識高揚が図られている	29	55	12	4	38	

*結果の評価：1（よくあてはまる）、2（ややあてはまる）、3（あまりあてはまらない）、4（まったくあてはまらない）

設問ごとの分析と具体的な改善方法		
	加重平均（評価1を4ポイント、評価2を3ポイント、評価3を2ポイント、評価4を1ポイントとする）を用いた評価による分析	
	番号 分析	具体的な改善方法
目標1	1 校外学習の内容は各学年工夫を凝らし取り組んでいるが、回数は前年度と同様のため、評価ポイントも差が生じていない。	校外学習や宿泊学習の回数が少ないという意見があった。教員の負担は大きくなるが自発的な意見として、次年度以降の行事予定で検討してはどうか。
	2 昨年度より改善している。	活動内容はどうしても行事の下準備が多く、表だって活動報告できることがあまりない。しかし、行事の下準備ほど重要で大変なものはない。準備内容については先生方に対して、生徒会の教員から話をするが、実際は生徒同士の話し合いで決めていることが多く、表には見えない。今後活動内容を始業式や終業式などで生徒や先生方に情報発信をしていきたい。
	3 昨年度と横ばいである。	部活動を活発に行っていくかどうかは、学校が部活動をどのように考えているかによるのではないだろうか。部活動の顧問を頼まれた先生方が時間の許す範囲で部活動を行っていただいている現状を鑑みると、生徒会係としては感謝をもって顧問に対し、可能な限りで費用負担というあたりの後押しをすることが大切だと考える。物価上昇もあり、来年度は物品購入費を少しだけではあるが増額させる。また、存続の難しいクラブを精査していくこととする。
	4 評価ポイントは高いとは言えないがそれほど低くもない。前年とポイントが同じなのでこの辺りで安定しているか。	私学人権教育研究会での他校の実践報告などを参考に、本校でも新しい取り組みをすべく計画しているが、現在のところ年間行事に各分掌から組み入れたい行事等の案が多く入っており、なかなか難しいところがある。
	5 +3.2ポイントと、わずかではあるが上昇しているので、少しではあるがよくなってきていると捉えられているのではないか。	本校のいじめに対する基本方針に沿って、適切に実施されていると考えてよい。今後も、時代の変化に応じて適切に対応していこうと考えている。
	6 前年度と比較してほぼ同じ結果(77.0ポイント)が出ていることから、昨年と同様に、多くの先生方が仏教教育・仏教行事に対して、ご協力をくださり、自らも聖徳太子の仏教精神を礎とする学校に奉職する身として、自己研鑽、仏道修行の意識をお持ちであることが読み取れる。	生徒を第一に考え、「この学校で仏教を学んで良かった」という気持ちを持ってもらえるように、生徒達の意識や心情的背景を深く理解し、先生方も仏教について探究心を高めていくことを願う。本校で学んだ「和の精神」「利他の精神」を、生徒たちが自分の人生に生かし、社会で実践していくことを目標とし、その為に先生方が全員、仏教教育・仏教行事に対してより深く理解と協働と探究心を持っていたくことが第一義と考察する。
目標2	7 II・IIIコースの文理系の扱いのブレや、観点別評価の実施が進んでいるように見えないことが、評価を下げた原因かと思われる。また、主体的・対話的な深い学びについても実践のための取り組みがなされていないという指摘(自由記述において)もあった。	令和8年度の教育課程の変更に備え、各教科の時間数を見直すことが必要。そのためには、現行の学習指導要領をきとんと理解し、授業で実践していくことが肝要。 IIコースの教科を絞りすぎている気がするので、IIコースでも生徒の選択肢を広げていけるように、5教科を学べる教育課程を作成する。 「どんな生徒を育てていくのか」ということを教員全体で共有し、それを目指す教育課程を令和8年度に実現する。
	8 84%の方が「効果的で円滑な学習活動を進めるために適切な時間割を編成している」と回答し、昨年度の約80%から向上していることがわかる。これは、時間割編成の質向上や関係者の努力が実を結んだ結果と考えらる。しかし年々、時間割編成における各条件の制約が大きくなり、理想的な時間割編成が困難な状況が続いているように思う。そのような中で、祝日や学校行事が土曜日や月曜日に著しく偏り、クラス時間割の曜日バランスの不備に関してご指摘があったと認識している。	個別のニーズの把握：時間割に対する具体的な要望や課題を把握し、個々の学習スタイルに合わせた調整を行う。 フィードバックの活用：定期的に時間割に対するフィードバックを収集し、迅速に改善策を講じる体制を整えていく。 柔軟な時間割の導入：時間割変更システムを新たに導入し、変更の手間を軽減していく。 以上を施すことで、大きな制約の中でも、ソフトウェアなどを駆使してよりバランスの良い時間割の作成を目指していく。
	9 昨年と同様の評価となった。特に大きい変化はないと考える。	「指導と評価の一体化」を見据えて、教科内の授業研究の効果的な進め方を考えるとともに、観点別評価を踏まえて新しい授業の形を作っていく必要がある。
	10 例年80%前後の数字であり、日常の仕事が多く、なかなか公開授業等に参加できない様子が伺える。また、折角、授業見学を行っても、活用に至っているような様子はあまり見られない。	平常の業務改善により、落ち着いて授業見学ができ、フィードバックできる環境を作ることが一番ではないか。また、公開授業を行きやすくするため、日程を先生方にもっと早めに伝えたり、日程的に重ならないような工夫が必要かと思う。 より効果的な教科内での授業研究が必要だと考える。そのためにも、特定クラスで研究授業を行い、多くの先生方で参観するなどの方法も模索すべきである。
	11 今年度81.1ポイント、前年度82.8ポイント。話し合いを持つ余裕がないという意見がある。	教科内の授業研究の効果的な進め方を考えると同時に、観点別評価を踏まえて新しい授業の形を作っていく必要がある。 他校交流や実践事例発表などの勉強会にもっと積極的に参加する機会を作るべきだと考える。 しっかり考える時間と余裕を持てる環境をつくることを真剣に考えるべきではないか。 内部の公開授業にあまり囚われず、外部の授業見学へ足を運び、教科に反映することで先生方自身も刺激をうけるのではないかと。
	12 1.5ポイント上昇。昨年度より改善がみられる。先生方の生徒に対する積極的な支援がこの数字で表れていると推察する。	今年度は放課後の個別学習の体制を一変し、特に中学生の放課後学習の在り方を変えることができた。今後これをより拡大していく必要がある。

設問ごとの分析と具体的な改善方法		
	加重平均（評価1を4ポイント、評価2を3ポイント、評価3を2ポイント、評価4を1ポイントとする）を用いた評価による分析	
	番号 分析	具体的な改善方法
目標2	13	1.0ポイント減少。昨年度より若干の減少がみられる。ただし、よくあてはまる、ややあてはまるで90%近くを占めているので、概ね行われていると考えられる。 以前よりは、適切な時期に適切な量の課題が計画して課されるようになってきた。これ以上の取り組みはなかなか難しいのではないかと。現状の取り組みを精査し、続けていく。
	14	探究と名のつく授業で探究活動が行われている事例が思い当たらないということであろうと感じる。自由記述では、総合的な探究の時間についての指摘が多かった。 総合的な探究の学習として現在おこなわれている教育の内容の再考が必要と考える。 評価が大変で、逃げ腰になる教員が多いことを打破すべく、AIなど新たなツールを効果的に活用する手法を研究していく必要がある。 令和8年度からのカリキュラムで行われる予定なので、学校の目標に繋がる探究学習を構築していく。それを実践する中で、数年間様子を見ていくことで、出てくる問題点を改善していきつつ、3年あるいは6年をベースとした本校の売りの一つになるような科目にしていく。
	15	2.5ポイント上昇。昨年度より改善がみられる。 高校ではⅡコースに文理ができたりカリキュラムの一部を変えたりといった試みがされている。講習でも中学大学連携・高校大学連携の講座が開かれたりといった取り組みがされている。このような取り組みを毎年継続して行うのは生徒にとって非常によいことである。学習に対する動機付けを強めるのに効果的だ。現状のこの取り組みを継続して行えばよいと考える。
目標3	16	0.3ポイント上昇。現状維持。 ICTのおかげでデータをPDFで扱えるようになり、資料の整理が楽になっている。 若い先生も多いので、どの時期にどのような進路の話をするか進路指導部主体で基本的枠組みを作っていくのも一案と考える。
	17	2.7ポイント減少。昨年度より減少がみられる。ただし、よくあてはまる、ややあてはまるで98%近くを占めているので、概ね行われていると考えられる。 外部業者と進路指導部の2回の体制で実施されて、十分活用されている。内容の充実をはかり、生徒に役立つものとする。
	18	4.1ポイント減少。昨年度より大幅な減がみられる。ただし、よくあてはまる、ややあてはまるで98%近くを占めているので、概ね行われていると考えられる。 各担任の先生方の努力により、面談等がよく行われており、適切な進路指導がなされている。これに関しては現状でも問題はない。 担任経験の浅い先生方のためには、各面談でどのようなことを話すのか進路指導部が示す。
	19	2.1ポイント上昇で微増。8割を超えており適切かと思われる。自由記述では実力考査への意見が多い。今年度見直したので、次年度どのようなになるか待ちたい。 実力考査の意義は今年まとめたので、新たな共通認識のもと、今後どのようなになるか数年間様子を見ていくことで、また考慮点などが出てくるのではと考える。 今年度同様、状況を見ながら実力考査の方針をよりよいものに改善していく。教員、生徒へ方針や目的をしっかりと伝える。 実力考査の意義をきちんと確認し、それを踏まえて問題作成を適切に行うことができれば、十分に意味のある試験となる。 大手予備校や連携した業者が行う外部模試はデータの母集団がそれなりに大きいので(少なくとも校内だけより)、進路指導に活用できる。解答・解説もすべてではないが使える部分も多いので、今後も、今までと同様に活用していく。
	20	昨年度より改善している。 問題行動に対しては「未然防止」「早期発見」「初期対応」等が重要である。各教員間で共通の認識をもち、偏りなく指導できる体制が整っていることが理想である。指導が不十分な教員に対しては、何らかの対処を講じた上で、サポートできる体制をいち早く整え、教員間で指導の差がないようにする。 また担任がどれだけクラスの生徒に関心を持ち、目が行き届いているかが、重要だと思う。担任経験のない教員へのフォローなど学年団のみならず、教科担当にも積極的に生徒達と関わってもらい、教員間で統一した認識を持って指導を行っていく必要がある。
目標4	21	昨年度より改善している。 学年によって、生徒の問題行動に関する情報の共有が不十分であると思う。若手の先生が情報共有しやすいように風通しのよい職場環境を作り、「チーム学校」による指導体制の構築が必要になると考える。 生徒指導会議では毎週、学年からの報告があるので、生徒指導係は他学年の様子について把握できている。生徒指導係から個人情報・プライバシーの観点から、学年へどこまで報告するのか悩むところもあるが、伝えてもよい範囲内で各学年の会議を通じて共有していく。
	22	昨年度より改善している。 社会に出たときに困らないように、特に挨拶や公共の場でのマナーなどを教員全体で見守り、指導できる体制を整えることが学校全体の雰囲気づくりとしても重要であると考え。ホームルームや講演を通して、徹底していく。
	23	昨年度より改善している。 校則は何のためにあり、決して縛り付けるためだけではないことを理解してもらうことが重要である。社会に出るための練習として自主的に校則を守ることできるよう指導を行う。特に校外においては制服や鞆など学校の看板を背負っているため、特に重要であると考え。朝礼時にしっかりと確認し、その場で指導することが必要。それをしない担任がいることが問題である。 教員それぞれに自身のお考えや思いがあるのは良いことだが、学校として動いていることを忘れてはならない。注意しない、生徒をよく見ていない担任について、何かしらの対処が必要である。
	24	昨年度より少し下がっているが、概ね高い評価が得られている。 特になし。

設問ごとの分析と具体的な改善方法		
	加重平均（評価1を4ポイント、評価2を3ポイント、評価3を2ポイント、評価4を1ポイントとする）を用いた評価による分析	
	番号 分析	具体的な改善方法
目標4	25 昨年度より改善している。	特に不登校傾向の生徒に対してのアプローチを担当・カウンセラー・学年で連携を取り、学校に少しでも来れるような声掛けやコミュニケーションを取っていくこと。遅刻などが多い生徒は、事情などを考慮したうえで、適切なアプローチを行っていくことが重要であると考え。担任だけでなく、学年全員で遅刻や欠席を減らすための声掛けや家庭連絡を行う。いつも担任からの注意では限界があるので、回数によって学年主任面談や生徒指導部長面談などを行う等を検討する。
	26 昨年度より改善している。	教員間の挨拶から積極的に行っていき、まずは大人が示しをつけることが重要であると考え。現在、風紀委員や仏教委員が立ち番をしてくれているので、このような活動を継続していく。生徒が「先生に挨拶をしても無視をされたことが1度や2度だけでなく、挨拶するのが嫌になった」と言っていたことがある。校長先生もいつもおっしゃっているが、まずは教員が積極的に挨拶していくべきだ。
	27 環境美化について、各先生方へお願いしたり、生徒に対して注意喚起する機会が少なかったのだと思う。	折に触れて美化委員会を実施し、生徒へ注意喚起を行っていく。
	28 評価1が増加したので、昨年度よりも評価が上がった。	保健だよりの配付回数や掲示物の作成を増やす。保健体育科と連携し、外部講師による、性教育の講演を実施する。保健室の利用方法について周知徹底する。
学校運営	29 評価1が減少し、評価4が増加したので、昨年度よりも評価が下がった。	各分掌、各教科、学年会議が、単位報告会でなく、前向きな、建設的な、誰もが意見を出し合える環境を作る。
	30 評価1が減少し、評価4が増加したので、昨年度よりも評価が下がった。	各部署でチームワークをもって教育活動を行ってもらいたい。お互いを理解し、信頼しあえる関係になってもらう。
	31 評価1が減少したので、昨年度よりも評価が下がった。	ホームページの刷新を考える。
	32 評価1が減少したので、昨年度よりも評価が下がった。	各教科・分掌で情報共有をしてもらっているが、時間がない中、何とか工夫して他の教員に共有してもらう。
	33 評価1が減少し、評価4が増加したので、昨年度よりも評価が下がった。	より効率的に受けてもらえるように考える。
	34 評価1が減少したので、昨年度よりも評価が下がった。	年々、避難に要する時間が短くなってきているが、様々な場面を想定して訓練をする。
	35 受験生が減った事により、評価が少し下がっている	令和8年度入試に向けて、「時間外だから協力しない。」、「手当が必要。」等考えや姿勢を正して欲しい。生徒が協力してくれても、先生方の熱意が感じられなければ受験生や保護者は本校に対しての魅力を感じていない。生徒募集に関して先生方が何とか一枚岩になることが大切だ。
	36 受験生が減った事により、評価が少し下がっている	令和8年度入試に向けて新ホームページの作成、SNSでの情報発信が必要である。ホームページ係と兼務の入対メンバーが不在になっている。ホームページ係の先生方へ業務の内容を校長、教頭先生から話していただき、しっかり対応していただく。
	37 評価1が増加し、評価4が減少したので、昨年度よりも評価が上がった。	個人情報の大切さについて全教員が理解しているが、常に注意を促していく。
	38 評価1が減少し、評価4が増加したので、昨年度よりも評価が下がった。	生徒募集の大切さについては全教員が理解していると思うが、生徒がいなければ学校は成り立たないという意識をもって、全教員の協力を願う。

＊学校関係者評価委員会からの評価（会議での意見とアンケートの結果をまとめた。令和7年3月14日実施）	
目標1	[設問1]活発に行われているクラブとそうでないクラブの差が激しいように思えます。クラブ活動は子どもたちの社会性を育む大事な活動なので、同じ熱量でやっていただきたいと思います。[設問3]ある保護者から、いじめには発展しなかったのですが、きちんと取り扱っていただけなかったという話を聞きました。先生によって取り扱いが違っていると感じました。[設問5]親はスキーに行って欲しいと思っているのですが、現状は子どもの気分次第になっています。学校として連れて行っていただきたい。海外語学研修は全体となると費用の面等難しいと思います。修学旅行以外で何か全員で参加できる校外学習を考えていただきたいと思います。[設問全体]すべての設問において、評価ポイントが同等または、上がっているのが良いと思います。
目標2	[設問9]高校の授業の内容ですが、今先取されている学校が多いように聞きます。本校でも、どの教科かは聞いていませんが進度が他の学校より遅いので生徒が焦っているようです。共通テストを受けるうえで学校の授業で事足りている教科と足りていない教科があるようです。学校の定期考査では点数が取れますが、外部模試（ベネッセ等）では点数が取れない。深く掘るよりも広く知識を得たい。比較する学校の進度が早いだけかもしれませんが、他校の進度を聞き、追いついてないので不安になるそうです。[設問全体]評価ポイントが前年度より下がっている設問があるが、次年度は上がるように取り組んでほしい。クラス編成が難しかったことがよく見え、改善がなされたことがよくわかる。
目標3	[設問18]懇談時に情報提供を受けていますが、他の方と話をすると少し違う部分があります。推薦枠は、ⅠⅡⅢコース全部あるとか、ⅡⅢコースだけだとか。保護者の聞き間違いがあるかもしれませんが、情報が統一されていないように思えます。進路説明会もYouTube配信等していただいていると思いますが、直接学校で聞きたいです。学校で説明会を実施するとなると保護者の参加人数は少ないかもしれませんが、親も一緒に聞いておかないと、あとで子どもに聞いてもその内容が判り辛いことがあります。以前、別の学校では、進路説明会は講堂で保護者も聞けたので、家に帰ってから子どもと進路についてのコミュニケーションが取りやすかった。[設問全体]設問17、18の評価ポイントが下がっているのが気になりますが、進路について重要なところなので、しっかり取り組んでいただきたい。
目標4	[設問28]保護者からは、見えない部分があります。ある保護者から、女子生徒の頭髪規定について、ハーフアップ（髪型）はなぜ禁止なのかわからないという話がありました。[設問全体]多くの設問において、評価ポイントが上がっているのが良いと思います。
学校運営	[設問38]自己評価アンケート項目38「職員の生徒募集の意識高揚が図られている」に通じるものがあると思いますが、文化祭で人を集めるのに内に籠り過ぎだと思います。もっとアピールできるのではないのでしょうか。2日実施の1日目ですが、生徒の友達、卒業生、一般の方等もっと外部から人を入れれば良いと思います。この意見は、他の保護者の方からもよく聞いていることです。東は他校のように活気がない。学校選びの時、親は「文化祭どこがいいの？」と言う話になります。文化祭、体育祭が楽しいと、その学校に行きたくなるものです。ですので、これから学校を選ぼうと考えている生徒に対しての招待もいいかもしれません。文化祭は生徒を集める上で重要だと思います。小学生も来られなくなっていますか。他校では、例えば段ボールで滑り台を作成したり、文化祭が面白いからそこを受験しようとなります。また、親も生徒も素の生徒（在校生）を見ることができる。他校の文化祭は楽しかった。中庭で殆どの生徒が集まり学園祭らしかった。東は見て回り辛いところがあります。[設問全体]評価ポイントが下がっている設問が多いので残念だ。教員一人ひとりが意識して取り組んで頂ければ、評価ポイントが上がると考えます。会議時間を短縮し、校外研修を受講する体制を教員が求めているのがよく理解できる。教員が高い向上心を持っているのがうかがえる。

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価				
中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
1 聖徳太子の豊かな情操を涵養し、人間を育成する。	令和5年度の自己評価アンケートで最も肯定評価が低い「生徒会活動が活発に行われている」を今年度の重点目標とする。	ア. 委員会活動も生徒会活動の一環であることを周知する。 1. 生徒会の活動を学期ごとの始業式や終業式で活動報告する。 2. 文化祭で各専門委員会の活動を発表する。 イ. 主体的に生徒会活動が運営できるようにする。 1. 定期的に生徒会役員執行部が集まり、活動内容を検討する。 2. 地域の清掃活動や挨拶運動等、各専門委員会と協力して活動を行う。	・教員自己評価アンケートのパーセント。 (加重平均を用いた評価75%以上)	ア. 昨年度と比較して、肯定評価が5.3%上がっている。各学期の始業式、終業式で生徒会執行部より活動報告を行ったり、文化祭で各専門委員会の活動発表を掲示するなど、生徒・教員に活動の様子を知っていただくことがポイント上昇につながったと考える。 イ. 2週間に1回、場合によっては毎週執行部が集まり、活動内容を検討してきた。ホームページで各クラブの紹介を行ったり、地域の清掃活動を実施したり、文化祭の内容について検討するなど生徒会執行部みずからの発案を形にしていけることが増えた。一昨年より実施している風紀委員会の挨拶運動や、仏教委員会のギャラリーでの礼拝運動も継続して行い、校内の風紀向上に貢献している。(加重平均を用いた評価76.5%) (○)
2 探究活動やICT教育の意欲の高揚と学力の向上を目指す。	令和5年度の自己評価アンケートで、昨年度から11.5%肯定評価が低くなった「クラス編成や講習など、進路実現に向けた学力向上策が充実している」を今年度の重点目標とする。	ア. クラス編成については、高校1年生進路カンファレンス(学年教員+進路指導部長)を実施する。 イ. 講習会について 1. 教員全員(体育科・仏教科なども含める)で授業を行う。 2. 午後の中大・高大連携授業を拡充する。 3. 各教員の持ちコマが過重にならないよう配慮する 4. 講習会実施後、教員アンケート行い、今後の参考とする。	・教員自己評価アンケートのパーセント。 (加重平均を用いた評価75%以上)	ア. クラス編成をする際に、7月と1月に2回、高1学年の教員と進路指導部で進路カンファレンスを開催し、高1生徒生徒全員について理系・文系と2年次のコース選択を検討した。第1回目7月のカンファレンスの後、各担任が生徒にフィードバックし面談の材料とすることもできた。 イ. 夏期講習について 1. 5教科以外の体育、音楽、仏教の先生にも講習に参加してもらった。それゆえ、5教科の先生方の負担軽減ができた。 2. 今年度から四天王寺大学に加え、大阪工業大学にもお手伝いいただいた。昨年度は中学3年生だけが高大連携を行ったが、本年度は中学全学年に提供できた。また、中学高校全体で講座数も昨年度の5講座から8講座に増加し、幅広い内容で生徒に探究的な機会を提供できたと考える。 3. 夏期講習では、午前中の授業だけで、各教員の負担はおおよそ2コマとなり、軽減することができた。 4. 夏期講習後にアンケートを実施した。「各教員の持ちコマが適切か」については、76.4%が肯定評価、また、「5教科以外の科目も組み入れは適切だ」に対しても、61.8%の肯定評価となった。(加重平均を用いた評価77.0%) (○)
4 規範意識を高め、調和の取れた人物を育成する。	令和5年度の自己評価アンケートで、肯定評価が2番目に低い「生徒の問題に対して情報共有し、組織的に対応できている」を今年度の重点目標とする。	ア. 各学年で発生した問題行動の情報共有を行う。 1. 毎週実施する生徒指導会議において、各学年の様子や問題について、全学年の生徒指導部で情報共有する。 2. 問題行動が発生した学年の学年生徒指導や担任は、当該学年の教員や、必要に応じて教科担当者へ連絡し、情報共有をはかる。 3. 情報共有の際、個人情報に関する守秘義務については、十分な配慮を行う。 イ. 組織的に対応する。 1. 毎週の生徒指導会議において、問題生徒への対応方法や問題解決についての対応を検討する。 2. 各学年の生徒指導は学年主任、担任、学年教員の協力を得て、問題に対処する。	・教員自己評価アンケートのパーセント。 (加重平均を用いた評価75%以上)	ア. 昨年度と比較して、肯定評価が4.4%上がっている。 毎週実施している生徒指導会議で、各学年の様子や対応方法などを共有し、指導方法を検討することができた。またプライバシーや個人情報に係わる事案もある為、すべての情報を全教員で共有することはできないが、他学年で起こっている問題やトラブルについて情報共有できる案件については、各学年の生徒指導部より各学年の学年会議で伝えてもらうことで、共有することが出来た。 イ. 問題行動やトラブルが発生した場合、担任だけでなく学年主任、学年生徒指導係と共に事情を確認後、生徒指導部長に報告し、管理職と共に対応を検討するといった組織的な対応ができた。(加重平均を用いた評価79.9%) (○)

評価ポイント と 過去年度との比較

資料①

表①は

 になります。

①

設問	R5	R6	R7	R8	R9
1	86.8	86.8			
2	71.2	76.5			
3	76.4	76.5			
4	76.0	76.0			
5	78.4	81.6			
6	76.9	77.0			
7	82.5	79.1			
8	80.4	84.0			
9	85.8	85.7			
10	80.8	79.5			
11	82.8	81.1			
12	76.0	77.5			
13	76.5	75.5			
14	80.9	81.5			
15	74.5	77.0			
16	87.7	88.0			
17	90.2	87.5			
18	92.6	88.5			
19	79.8	81.9			
20	76.5	78.4			
21	75.5	79.9			
22	73.0	78.4			
23	72.5	78.4			
24	90.2	89.4			
25	75.0	81.5			
26	78.4	83.3			
27	80.9	78.9			
28	78.4	78.9			
29	78.4	74.5			
30	78.9	78.4			
31	83.8	82.5			
32	76.5	75.5			
33	76.4	74.5			
34	86.3	84.8			
35	91.3	85.3			
36	91.2	87.3			
37	87.3	89.2			
38	81.3	77.5			

平均	80.7	81.0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
----	------	------	---------	---------	---------

表②は

 になります。

②

設問	R6-R5	R7-R6	R8-R7	R9-R8
1	0.0			
2	5.3			
3	0.1			
4	0.0			
5	3.2			
6	0.1			
7	-3.4			
8	3.6			
9	-0.1			
10	-1.3			
11	-1.7			
12	1.5			
13	-1.0			
14	0.6			
15	2.5			
16	0.3			
17	-2.7			
18	-4.1			
19	2.1			
20	2.0			
21	4.4			
22	5.4			
23	5.9			
24	-0.8			
25	6.5			
26	4.9			
27	-2.0			
28	0.5			
29	-3.9			
30	-0.5			
31	-1.3			
32	-1.0			
33	-1.9			
34	-1.5			
35	-6.1			
36	-3.9			
37	2.0			
38	-3.8			

平均	0.3	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
----	-----	---------	---------	---------

設問内容は別紙を11ページを参照してください。評価ポイントの計算式は資料③に記載されています。

資料②

表の見方

数字 表示は

下記の計算式での評価ポイントが、75未満を示しています。

改善の余地がある項目

になります。

*昨年までの肯定評価のパーセンテージでは評価ポイントが高くなりすぎ、問題点が見えにくくなります。それゆえ、今年度より下記の加重平均（評価1を4ポイント、評価2を3ポイント、評価3を2ポイント、評価4を1ポイントとする）を用い、それを百分率表示することとします。令和5年度も加重平均で再計算しています。

計算式：
評価ポイント=(評価1*4+評価2*3+評価3*2+評価4*1)/全サンプル数*25

	番号	設 問	評価ポイント	
			令和 6年度	令和 5年度
目標1	1	校外活動(修学旅行・校外学習・スキー学舎等)が適切に計画・実施されている	86.8	86.8
	2	生徒会活動が活発に行われている	76.5	71.2
	3	部活動が活発に行われている	76.5	76.4
	4	人権教育が適切に計画・実施されている	76.0	76.0
	5	いじめに対する基本方針に沿い、その取組が適切に実施されている	81.6	78.4
	6	仏教教育・仏教行事が適切に計画・実施されている	77.0	76.9
目標2	7	教育課程は学習指導要領に沿い、かつ生徒や学校の実態等を踏まえたものになっている	79.1	82.5
	8	効果的で円滑な学習活動を進めるために適切な時間割を編成している	84.0	80.4
	9	年間を通じた教育計画を各教科別に立てている	85.7	85.8
	10	公開授業や研究授業など指導の内容・方法の工夫改善に向けた取り組みが、学校全体で行われている	79.5	80.8
	11	教科内で、授業内容の改善・向上に向けた話し合いを行っている	81.1	82.8
	12	学習状況に応じて生徒を支援する体制が整っている	77.5	76.0
	13	家庭学習時間の確保に向けた取組を行っている	75.5	76.5
	14	授業で、探究活動を実践したり、ICT(情報通信技術)を活用している	81.5	80.9
	15	クラス編成や講習など進路実現に向けた学力向上策が充実している	77.0	74.5
目標3	16	生徒の進路選択に役立つように状況に応じた必要な情報を提供している	88.0	87.7
	17	進路説明会は、適切に計画・実施されている	87.5	90.2
	18	定期的な懇談・面談などを通じて適切な進路指導がなされている	88.5	92.6
	19	実力考査・外部模試等を進路指導に適切に活用している	81.9	79.8
目標4	20	校内外の指導等、問題行動を未然に防ぐ教育を適切に行っている	78.4	76.5
	21	生徒の問題に対して情報を共有し、組織的に対応できている	79.9	75.5
	22	社会のルールマナーを順守させている	78.4	73.0
	23	服装規定を守らせている	78.4	72.5
	24	生徒への指導について、保護者への報告が適切になされている	89.4	90.2
	25	遅刻・欠席を少なくさせている	81.5	75.0
	26	挨拶をすることや時間を守る指導などを通して、基本的な生活習慣の確立に努めている	83.3	78.4
	27	環境美化や清掃に対する意識の向上を図っている	78.9	80.9
	28	年間を通して生徒自らに健康観察や健康の保持増進できる能力を養わせている	78.9	78.4
学校運営	29	職員会議をはじめ各種会議が有効かつ効率的に機能している	74.5	78.4
	30	教員間・教科間の相互理解がなされ、連携して教育活動が行われている	78.4	78.9
	31	学校のホームページを活用し、教育活動や生徒の学校生活について情報公開している	82.5	83.8
	32	研修・研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制がある	75.5	76.5
	33	教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている	74.5	76.4
	34	防災訓練の実施等、防災に対する意識の高揚を図っている	84.8	86.3
	35	入試説明会などを通して、情報の発信が適切に計画・実施されている	85.3	91.3
	36	ホームページで入試関連行事などの情報発信が適切に計画・実施されている	87.3	91.2
	37	個人情報保護の指針が守られ、個人情報が適切に扱われている	89.2	87.3
	38	職員の生徒募集の意識高揚が図られている	77.5	81.3

令和6年度 学校評価

令和 7年 7月 1日発行

発行責任者 学校法人 四天王寺学園
四天王寺高等学校
四天王寺中学校
校長 柏井 誠一

監修 教頭 森 隆

編集 学校評価検討委員会
委員長 浮邊 浩一郎
委員 中山 栄治 近藤 哲也
矢野 元和 今泉 龍朗